

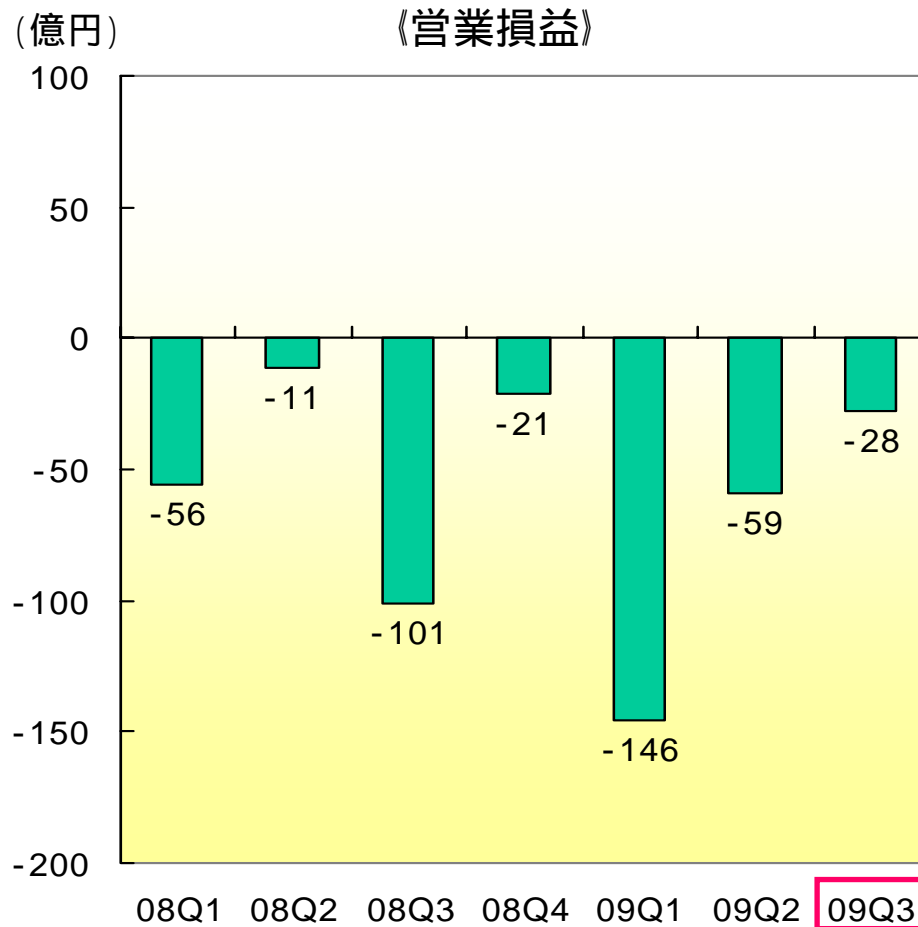
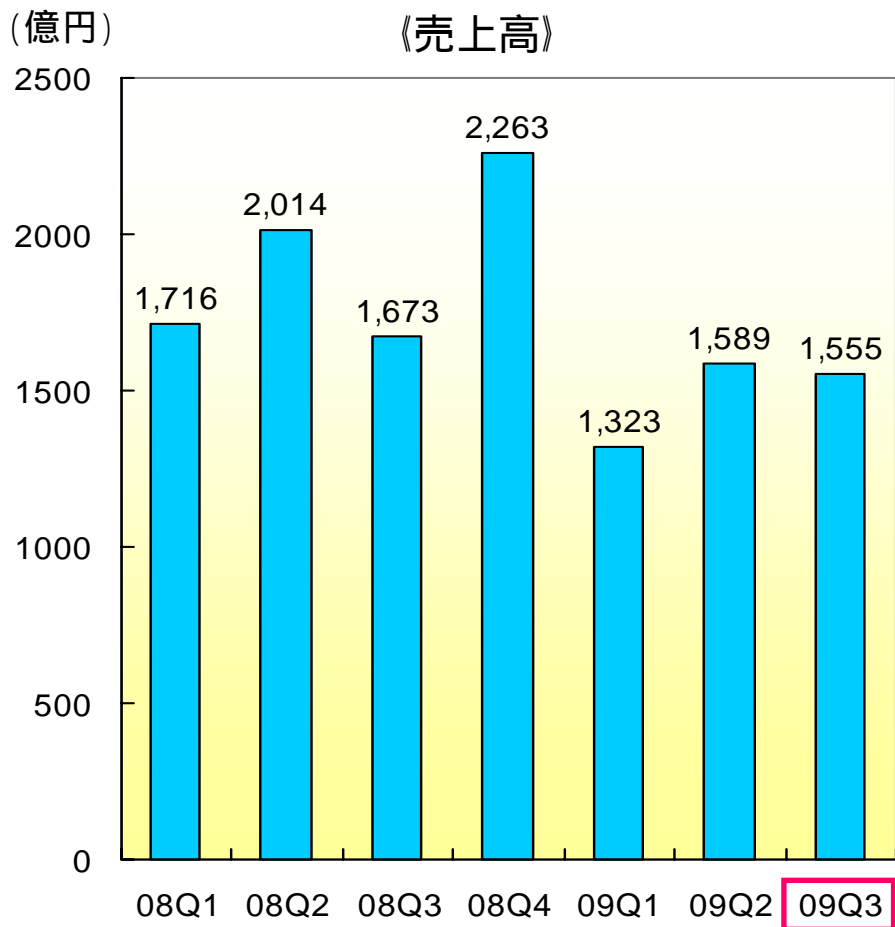
2009年度 第3四半期 決算説明会

2010年1月29日

富士電機ホールディングス株式会社

第3四半期決算のサマリー

第3四半期連結会計期間(10～12月)は、前年同期に対し、売上高は減少したものの、営業損益は総経費圧縮効果と電子デバイスの回復により赤字が7割縮小。前四半期に対しても、売上高は微減ながら赤字は半減。



総経費の圧縮は年間計画値を上回り120%の達成率

(単位:億円)

2009年度効果 (対2008年度)	年間計画	第3四半期累計			達成率
		上期	第3四半期		
合計	700	(420) 510	(155) 200	(575) 710	101%
総経費圧縮	430	(310) 390	(80) 125	(390) 515	120%
コストダウン	270	(110) 120	(75) 75	(185) 195	72%

()は計画値

総経費対策の内容

人員再配置、賃金等の見直し含む人的経費、設備投資、研究開発費等の総経費圧縮

(単位:億円)

	2008年度 Q3実績	2009年度 Q3実績	増減
売上高	1,673	1,555	-119
営業損益	-101	-28	+73
経常損益	-135	-35	+100
特別損益	-1	-46	-44
法人税等	264	-8	-272
少数株主損益	-7	-10	-3
四半期純損益	-393	-63	+330
平均為替レート US\$	¥96.32	¥89.71	
平均為替レート EURO	¥126.74	¥132.68	

売上高 増減要因

電機システム	-130
電子デバイス	+51
リテイルシステム	-48

営業損益 増減要因

コストダウン	+75	} 総経費圧縮+125		
人件費減	+37			
資本費減	+15			
研究開発費減	+14		物量減他	-86
その他経費減	+59		価格ダウン	-31
工事進行基準 適用影響	+5		PBO数理差異償却 為替影響	-11 -4
計	+205	計	-132	

営業外損益 増減要因

金融収支	-14
為替影響	+35
持分法投資損益	+6

(単位:億円)

		2008年度 Q3実績	2009年度 Q3実績	増 減
売 上 高	電機システム	1,077	947	-130
	電子デバイス	304	355	+51
	リテイルシステム	295	247	-48
	そ の 他	102	89	-13
	消 去	-105	-83	+22
	合 計	1,673	1,555	-119
営 業 損 益	電機システム	-19	-3	+15
	電子デバイス	-72	-11	+61
	リテイルシステム	-11	-13	-2
	そ の 他	3	6	+2
	消去又は全社	-3	-7	-4
	合 計	-101	-28	+73

電機システム

売上高は、発電プラントの大口案件の減少や器具の低迷により下回ったものの、営業損益は総経費圧縮、コストダウンにより改善。

電子デバイス

・半導体

自動車および産業分野向けが好調に推移したことにより売上高、営業損益ともに前年同期を上回る。

・ディスク媒体

市場が好調に推移し、売上高、営業損益ともに前年同期を上回る。

・感光体

売上高、営業損益ともに前年同期を上回る。

リテイルシステム

自販機やコールドチェーン機器の減少により、売上高、営業損益ともに前年同期を下回る。

(単位:億円)

(単位:億円)

	2008年度 Q3累計	2009年度 Q3累計	増減
売上高	5,403	4,466	-937
営業損益	-168	-233	-65
経常損益	-210	-273	-63
四半期純損益	-500	-225	+275

平均為替レート US\$	¥102.85	¥93.56
平均為替レート EURO	¥150.70	¥133.00

		2008年度 Q3累計	2009年度 Q3累計	増減
売上高	電機システム	3,214	2,741	-473
	電子デバイス	1,192	888	-304
	リテイルシステム	1,017	817	-200
	その他	333	295	-38
	消去	-353	-275	+78
	合計	5,403	4,466	-937

営業損益	電機システム	-31	-50	-19
	電子デバイス	-137	-146	-9
	リテイルシステム	-6	-36	-31
	その他	16	17	+1
	消去又は全社	-9	-17	-8
	合計	-168	-233	-65

フリー・キャッシュ・フローの黒字を確保

(単位: 億円)

	2008年度 Q3累計	2009年度 Q3累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	-85	44
投資活動によるキャッシュ・フロー	-140	16
フリー・キャッシュ・フロー	-225	60
財務活動によるキャッシュ・フロー	473	-497
キャッシュ・フロー	223	-442

棚卸資産の大幅圧縮

固定資産の売却

短期借入金・コマーシャル
ペーパーの減少
社債の償還

現金及び現金同等物の期首残高	221	854
現金及び現金同等物の期末残高	448	440

営業損益は通期で赤字解消の見通し

(単位: 億円)

	2009年度 5/15計画	2009年度 今回予想	増減
売上高	6,900	6,900	0
営業損益	-120	0	+120
経常損益	-170	-30	+140
特別損益	20	-60	-80
当期純損益	-170	-90	+80

平均為替レート US\$	¥90.00	¥92.67
平均為替レート EURO	¥115.00	¥128.50

売上高 増減要因

電機システム +10	リテイルシステム-100
電子デバイス+110	

営業損益 増減要因

コストダウン	+20
人件費減	+57
資本費減	+17
研究開発費増	-3
その他経費減	+74
物量減他	-42
為替影響	-3

総経費圧縮
+145

営業外損益 増減要因

金融収支	+18
持分法投資損益	+4

4Q為替レートと1円影響(営業損益)

	US\$	EURO
為替レート(円)	90	115
1円影響(億円)	0.8	0.2

(単位:億円)

		2009年度 5/15計画	2009年度 今回予想	増 減
売 上 高	電機システム	4,400	4,410	+10
	電子デバイス	1,180	1,290	+110
	リテイルシステム	1,290	1,190	-100
	そ の 他	430	400	-30
	消 去	-400	-390	+10
	合 計	6,900	6,900	0
営 業 損 益	電機システム	90	140	+50
	電子デバイス	-195	-120	+75
	リテイルシステム	10	-10	-20
	そ の 他	15	20	+5
	消去又は全社	-40	-30	+10
	合 計	-120	0	+120

電機システム

売上高は計画並みだが、営業損益は総経費圧縮・コストダウンにより大幅改善の見通し。

電子デバイス

半導体とディスク媒体の市況回復により
売上高は計画を上回り、営業損益は物量増に加え
総経費圧縮・コストダウンにより大幅改善の見通し。

リテイルシステム

想定以上の市況悪化により売上高、営業損益ともに
計画を下回る見通し。

(単位: 億円)

		2009年度 Q4計画 (5/15)	2009年度 Q4予想 (今回)	増 減
売 上 高	電機システム	1,525	1,669	+144
	電子デバイス	360	402	+42
	リテイルシステム	385	373	-12
	そ の 他	140	105	-35
	消 去	-140	-115	+25
	合 計	2,270	2,434	+164
営 業 損 益	電機システム	170	190	+20
	電子デバイス	-5	26	+31
	リテイルシステム	30	26	-4
	そ の 他	10	3	-7
	消去又は全社	-15	-13	+2
	合 計	190	233	+43

電機システム

売上高は、事業統合影響などにより計画を上回る見通し。

営業損益は総経費圧縮・コストダウン効果により改善の見通し。

電子デバイス

半導体とディスク媒体の市況回復により売上高は計画を上回り、営業損益は物量増に加え、総経費圧縮・コストダウン効果により改善の見通し。

リテイルシステム

想定以上の市況悪化により売上高、営業損益ともに計画を下回る見通し。

1. 本資料および本説明会に含まれる予想値及び将来の見通しに関する記述・言明は、弊社が現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいております。その判断や仮定に内在する不確実性及び事業運営や内外の状況変化により、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なる可能性があります。弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。
2. 本資料は、情報の提供を目的とするものであり、弊社により何らかの行動を勧誘するものではありません。
3. 目的を問わず、本資料を無断で引用または複製することを禁じます。